

日本整形外科学会 教育研修取得単位一覧

月日	時間	会場名	セッション名	演 題 名	演 者	分野番号 その他	現地 受講
10月23日 (木)	10:30～11:30	第8会場	第11回教育研修 セミナー ベーシックコース	股関節・骨盤・仙腸関節の解剖と機能	黒澤 大輔	11	○
				股関節手術前後のリハビリテーション	高窪 祐弥		
	11:40～12:40	第8会場	第11回教育研修 セミナー ベーシックコース	ナビ / ロボ / 特殊器械に頼らない THA のポイント	齊藤 正純	11	○
				種々の寛骨臼骨切り術の理論の違いとポイント	高平 尚伸		
	12:50～13:50	第8会場	第11回教育研修 セミナー ベーシックコース	DDH 遺残性亜脱臼の治療	及川 泰宏	11	○
				股関節・骨盤の腫瘍	藤原 智洋		
14:00～15:05	第8会場	第11回教育研修 セミナー ベーシックコース	緊急処置を要する股関節疾患・外傷	吉田 昌弘	2,11	○	
			脆弱性骨盤骨折の診断と治療	鈴木 卓			
10月24日 (金)	8:50～9:50	第2会場	教育研修講演2	股関節周辺の骨軟部腫瘍・腫瘍類似疾患	吉川 秀樹	5,11	○
	10:00～11:00	第2会場	教育研修講演3	小児の股関節疾患と周囲骨折の治療	大谷 卓也	3,11	○
				10歳代の股関節疾患の診断	三谷 茂		
	10:15～11:15	第1会場	招待講演1	Medical and Surgical Management of Patients with Inflammatory Arthritis undergoing Total Hip Arthroplasty (THA)	Stuart B Goodman	6,11,R	○
	11:40～12:40	第1会場	ランチョン セミナー1	THA 患者満足度向上の戦略～インプラント選択と手術手技の重要性	岩城 啓好	11	○
	11:40～12:40	第2会場	ランチョン セミナー2	股関節外科医のための骨粗鬆症再考ー評価から骨形成促進剤治療まで	馬渡 太郎	4,11,R	○
	11:40～12:40	第3会場	ランチョン セミナー3	Short fit and fill stem はこれから主流になるか？ ー 500 例の短期成績ー	仁平高太郎	11	○
				Collared cementless stem は術後ステム周囲骨折を低減させるか	竹上 靖彦		
	11:40～12:40	第6会場	ランチョン セミナー4	Bikini 切開による Direct Anterior Approach THA の軟部組織マネジメント	今釜 崇	11	○
				創縁・軟部組織保護に配慮した THA の工夫	前田 昭彦		
	11:40～12:40	第7会場	ランチョン セミナー5	THA アプローチを巡る私見 ～アプローチは手段か、哲学か？～	加畑 多文	11	○
				誰も教えてくれなかった！ 安全で簡単な前方アプローチ THA	三浦 陽子		
	11:40～12:40	第8会場	ランチョン セミナー6	股関節疾患と疼痛管理の実際 -変形性股関節症を中心に-	高平 尚伸	8,11,Re	○
	11:40～12:40	第9会場	ランチョン セミナー7	新型セメントステムの特長と短期成績（後方アプローチの立場から）	佐々木 幹	11	○
				低侵襲前方アプローチ（DAA）に適応したミューラー型ショートステムの手技的利点と骨固定のコツ	大西 宏之		
	11:40～12:40	第10会場	ランチョン セミナー8	Curved Short Stem のトリセツ～使いこなして有力な選択肢に～	縄田 昌司	11,S	○
				Advantages of a short-shaft hip prosthesis in very obese patients with a narrow femoral canal	Thomas J. Demharter		
	11:40～12:40	第11会場	ランチョン セミナー9	人工股関節のための非侵襲ピンレスナビゲーションシステムの現状とこれから	高田 亮平	11	○
	13:00～14:00	第1会場	特別講演	股関節外科のこれまでのあゆみと将来展望:あのとき歴史は変わった。	菅野 伸彦	11	○
	14:40～15:40	第1会場	教育研修講演1	股関節疾患に活用すべきリハビリテーション医学・医療	久保 俊一	11,13,Re	○
	15:50～16:50	第2会場	教育研修講演4	軟骨発生研究と iPS 細胞を使った軟骨再生治療法開発	妻木 範行	1,12	○
	15:50～16:50	第3会場	招待講演3	Developing New Treatment Strategies for Legg-Calve-Perthes disease and Adolescent Osteonecrosis of the Femoral Head	Harry K. W. Kim	3,11	○
	17:10～18:10	第2会場	イブニング セミナー	THA の成功は手術だけでは決まらない。疼痛を含めた“見えない要因”を考える。～K-hip study から～	古市 州郎	11,13,Re	○

月 日	時間	会場名	セッション名	演 題 名	演 者	評価 その他	現地 受講
10 月 25 日 (土)	8:40～9:40	第2会場	教育研修講演7	股関節の安定化機構をつくる構造	秋田 恵一	1,11	○
	9:50～10:50	第2会場	教育研修講演8	股関節外病変の診察の仕方と最新鏡視下手術 up to date 2025	内田 宗志	11,S	○
				股関節鏡の適応と治療	大原 英嗣		
	10:20～11:20	第1会場	教育研修講演5	寛骨臼高度骨欠損症例の治療戦略	加畑 多文	2,11	○
				同種骨移植を使用する臼蓋高度骨欠損の治療 「Impaction Bone Grafting 法と KT plate 併用法」	岩瀬 敏樹		
	12:45～13:45	第1会場	ランチョン セミナー10	すべてのロボティクスは同じではない。日本で求められる CT-based テクノロジーとは？	菅野 伸彦	1,11	○
				ALS アプローチとロボティクスの融合による低侵襲 THA：ナビゲーション手術との比較と自験例からの考察	宮坂 大		
	12:45～13:45	第2会場	ランチョン セミナー11	THA におけるテクノロジーの活用 テクノロジーで支える THA のこれまでとこれから	小川 博之	1,11	○
				THA におけるテクノロジーの活用～仰臥位におけるスマートテクノロジーの活用例～	小林 紘樹		
	12:45～13:45	第3会場	ランチョン セミナー12	低侵襲組織間温存前方進入法（AMIS）の実際と合併症対策：器械と手技の進歩	西脇 徹	11	○
				AMIS THA における Collared Short Stem の有用性：理論、実践、そして術後評価	田中 秀達		
	12:45～13:45	第6会場	ランチョン セミナー13	改良型テーパーウェッジシステムの開発と初期臨床成績	仲宗根 哲	11	○
				Zweymuller 改変型システムの開発と臨床成績	名越 智		
	12:45～13:45	第7会場	ランチョン セミナー14	CT-base portable navigation の今後の展開	竹上 靖彦	2	○
				仰臥位前外側アプローチ THA の進化	渡邊 弘之		
	12:45～13:45	第8会場	ランチョン セミナー15	グローバルレジストリーから探る Modern THA の最近の傾向と Next Standard	加畑 多文	11	○
				New Era in Personalised Hip Arthroplasty - Short, Triple-tapered, Hydroxyapatite-coated Stem: Early Clinical Follow-up	Michael Pritchard		
	12:45～13:45	第9会場	ランチョン セミナー16	Direct anterior approach による人工股関節全置換術における出血予防策 ～関節包の重要性～	今釜 崇	11	○
				人工股関節全置換術における患者満足度向上のために～今さら聞けない、知っておくべき pitfall～	山崎 琢磨		
	12:45～13:45	第10会場	ランチョン セミナー17	明日から使える 3D Printed ショートステム	中田 活也	11	○
	12:45～13:45	第11会場	ランチョン セミナー18	STOP ドミノ骨折！股関節を守るための骨粗鬆症診療	塚本 学	2,4R	○
	14:00～15:00	第2会場	教育研修講演9	高齢者の大腿骨頸部骨折 - 骨接合術の進化と臨床成績 -	塩田 直史	2,11,R	○
				非高齢者の大腿骨頸部骨折内固定の治療戦略	鈴木 卓		
	15:40～16:40	第1会場	教育研修講演6	人生100年時代の寛骨臼回転骨切り術の役割	安永 裕司	11	○
				大転子切離外側進入による Chiari 骨盤骨切り術	大川 孝浩		

日本リハビリテーション医学会 生涯教育単位一覧

月日	時間	会場名	セッション名	演 題 名	演 者
10月24日（金）	14:40～15:40	第1会場	教育研修講演1	股関節疾患に活用すべきリハビリテーション医学・医療	久保 俊一

<日整会専門医資格継続必須分野番号>

(N)：日整会専門医単位 (S)：スポーツ医単位 (R) リウマチ医単位
(SS)：脊椎脊髄病医単位 (Re)：運動器リハビリテーション医単位

<日整会認定教育研修 受講必須分野（専門医必須14分野）>

[1] 整形外科基礎科学／[2] 外傷性疾患（スポーツ障害を含む）／[3] 小児整形外科疾患（先天異常，骨系統疾患を含む，ただし外傷を除く）／[4] 代謝性骨疾患（骨粗鬆症を含む）／[5] 骨・軟部腫瘍／[6] リリウマチ性疾患，感染症／[7] 脊椎・脊髄疾患／[8] 神経・筋疾患（末梢神経麻痺を含む）／[9] 肩甲帯・肩・肘関節疾患／[10] 手関節・手疾患（外傷を含む）／[11] 骨盤・股関節疾患／[12] 膝・足関節・足疾患／[13] リハビリテーション（理学療法，義肢装具を含む）／[14-1] 医療安全（共通講習 必修講習）／[14-2] 感染対策（共通講習 必修講習）／[14-3] 医療倫理（共通講習 必修講習）／[14-4] その他の共通講習（必修ではない）／[14-5] 1～13に当てはまらない領域講習